

宮野健一政務活動報告（令和7年秋・冬号）

令和7年10月
発行元：宮野健一後援会
〒896-1512 薩摩川内市
下甕町瀬々野浦450
電話：080-3900-3951

ごあいさつ

秋冷の候、薩摩川内市の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
今夏も昨年に続き暑い夏となりました。学者の中には日本の四季は長い夏と冬の二季になりつつあると警告される方もおられます。豊かな四季に彩られた日本の文化や日常が失われつつあるのではとの思いが深まって来ています。また、数十年に一度といわれるような大雨が毎年のように降り、全国各地で痛ましい災害が繰り返し起きています。本市におきましても6月から8月にかけての大雨と台風による被害は記憶に新しいところです。このような情勢を踏まえ防災対策の重要性が今まで以上に増してきているものと認識を新たにしています。
さて、私も薩摩川内市議会議員になってから本年10月末で1年を迎えることとなります。5月に初めての「政務活動報告」を出してから、6月及び9月の定例会が開催されました。今号におきましてもこれまでの議会での状況や日頃の活動の概要をまとめ市民の皆様にご報告させていただきます。
今後も初心を忘れず活動して参りますので、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



故郷を守る。

薩摩川内市議会議員
(会派：希綱会)

- ・生活福祉委員会
- ・広報委員会
- ・薩摩川内市議会防衛議員連盟副会長

経過報告

QR
コード

左の二次元コードからホームページをご覧ください。
プロフィールや日々の活動の詳細を記載しております。

年月日	主要活動実績・イベント等
R7.4.21	所管事務調査（甕島）
R7.4.27	医療MaaS運用開始式典
R7.5. 8	上甕島診療所住民説明会
R7.5.11	下甕ぐるっとマラニック
R7.5.14	川内原子力発電所研修
R7.5.21	政務調査（長野・東京）（～7.23）
R7.5.26	甕島縦貫道路整備促進期成会総会
R7.6. 1	東郷平八郎記念日式典
R7.6.10	第2回市議会6月定例会（～7.4）
R7.7.25	護衛艦「こんごう」入港歓迎行事
R7.8.10	恵比須祭り（瀬々野浦）
R7.8.26	第3回市議会9月定例会（～10.7）
R7.9. 6	下甕島分屯基地創設70周年記念行事



所管事務調査（4月21日）



医療MaaS式典（4月27日）



下甕ぐるっとマラニック（5月11日）



政務調査・長野（5月22日）



東郷平八郎記念日式典（6月1日）



一般質問（6月・9月議会）



こんごう入港歓迎行事（7月25日）



瀬々野浦恵比須祭り（神事・餅投げ）（8月10日）



下甕島分屯基地創設70周年記念行事（9月6日）



令和7年6月定例会一般質問（要約抜粋版）



QR
コード

左の二次元コード
から録画映像をご覧
いただけます。

甌島航路の課題等について

問 新型フェリーは上下船の際の安全性、バリアフリー等に問題があり、従来のフェリーに比較し、これら安全性等が後退しているのではないかという厳しい意見もある。住民からの問題提起に対し、検討委員会等の合議の場を設置し、現状を正確に把握するとともに関係機関を含め、総合的に解決策を検討すべきと考えるが当局の見解を問う。

答 そのようなご意見があることを同社に伝え、今月十七日には市長からも直接、甌島商船に対し、意見交換の場を設定し丁寧に説明するよう重ねて要請した。

問 次期高速船の建造等に関わる構想等はあるのか。また新船の建造等の際には、利用者の声を反映する開発体制が必要であると考えるが当局の見解を問う。

答 現段階で新船の構想はない。その段階に至った際には利用者の声が反映されるよう協議する必要があると考える。

問 事故等で運休が長期に及ぶ場合のBCP（事業継続計画）は県及び甌島商船と検討されているのか。

答 現現時点では策定していな。いざというときに備え策定を甌島商船に要請する。

第三次薩摩川内市総合計画の推進体制について検討要領を問う

問 当局としては、全体の実施状況を取りまとめ戦略的に評価等を実施するため、いかなる体制をもってPDCAサイクルを機能させるのか、その方針を問う。

答 具体的な評価手法として、第三次総合計画前期基本計画で掲げる58の施策を基準とした基本業務を対象とする評価を毎年度実施している。この基本業務評価制度は、各政策の現状から、達成度を客観的に測定するために設定した活動指標と成果指標の数値を補足し行うとともに、その内容を分析した上で、今後の取組について示すものであり、総合計画のPDCAサイクルを機能させる仕組みとしている。

問 それではなぜ基本計画第2章のような戦略的プロジェクトをつくったのかというところは意味がなさなくなる。まさにそこを反映した評価体制をつくるべきと考えるがそのような観点で、当局の見解を伺う。

答 社会、環境、経済、実現の四つのチャレンジ戦略におきまして、市長を本部長とする庁内組織を設置し、部局、組織を横断して、各事業の課題や執行の進捗状況の共有を図るほか、今後の計画等について確認、協議を行っていく。

（以下の問答、省略）



【その他の質問通告】

①地方自治における正義とは何か。



QR
コード

左の二次元コード
から録画映像をご覧
いただけます。

6月の上甕島での大雨災害への対応と教訓について

問 本年6月に上甕島で床上浸水及び床下浸水などの被害が発生したが、同地区は過去に浸水被害が発生しており今後も同様な被害の可能性が高い。今後の市の災害の再発防止策の方針及び対策を伺う。

答 現況調査を行い被害の発生メカニズムを解明、その後地元の意見を聞きながら地理的特性を踏まえ効果的浸水対策を行う。

問 対策が完了するまでの間、応急的なポンプの設置はできないか。

答 臨時ポンプについて地元の意見を聞いて設置に向けて検討する。

問 洪水等で浸水した家屋の復旧には多額の費用がかかるが災害見舞金の額はこれに比較し少額である。災害が頻発する現状を踏まえ現状の金額を見直す考えはないか。

答 ふるさと納税を活用した災害見舞金の上乗せを予定している。その他、市民税、国保税、固定資産税、介護保険料や上下水道の減免で生活再建を支援する。

問 本市においては今回の災害対応を踏まえ、レジマネジメント（知識管理）、DX（デジタル・トランスフォーメーション）等の観点からどのような対応を考えているか。

答 9月1日からマイポータルを使用し災害証明書のオンライン申請が可能となった。今後も継続して検討し、より使いやすい行政サービスの構築に努める。

問 今回の災害を通じて防災マップの有効性と限界を認識するとともに、避難経路及びその周辺のリスク調査が重要であり防災教育等に取り入れていくべきと考えるが市の見解を問う。

答 地域の要望に応じて出前講座や避難訓練などを行っている。これらを活用し市と地域で一緒に学びながら防災対策に取り組んでいきたい。

閉校跡地等の活用について

問 最新の閉校跡地の利用状況について、①閉校跡地の活用・未活用の現状、②活用可能な校舎数を示せ。

答 ①活用対象26施設中、活用は本土12施設、甕島2施設、未活用は本土9施設、甕島3施設
②本土10施設、甕島4施設

問 閉校跡地利活用促進のため使用料の減額、無料化し施設の利用の機会を増やすとともに、活用事例を研究して積極的にセールスをするべきと考えるが市の見解を伺う。

答 短期の貸し出しについては公有財産規則に基づき算定する。今後も活用事例を参考にホームページへの掲載、他部署と連携し企業訪問などで紹介するなど利活用を進める。

問 閉校した校区の教職員住宅の活用可能な住宅戸数と今後の活用方針は

答 本土地域4戸。甕島1戸（甕島の残りは单身向けや世帯用に一定数確保）。大規模改修はせず老朽化したものは解体し民間住宅への居住を進める。地域の要望や一般住宅が少ない地域は必要な改修を行い維持管理に努める。

問 閉校跡地の管理の現状及び1年当たりの維持管理費の総額を伺う（①閉校跡地の利活用対象施設、②それ以外の校舎・教職員住宅）。

答 ①職員により随時見回り。6年度14施設で約630万円。②校舎は約50万、住宅は無料。

【その他の質問通告】

①自治体レベルでの国難級の災害発生時への備えについて。

I 「結Lineこしき」にかかる意見交換会について（産業建設委員会資料から転載）

1 趣 旨

結Lineこしき就航後、船の設備等について利用者（特に甑島居住者）から改善を求める声があがっていることから、現在の設備・設計に至った背景について甑島商船が説明を行い、今後の対応について意見交換を行った。

2 日 時：令和7年7月23日（水）11:10～12:20（於：上甑老人福祉センター）

3 出席者：甑島エリア各地区コミュニティ協議会会長、甑島商船（主催）、薩摩川内市

4 甑島商船の説明及び意見交換の概要

(1) 甑島商船からの新船設計や設備に関する主な説明内容

ア 旧船と長さ・幅ほぼ同じ大きさ、4.0mまでの高さの車両が乗せられるよう20 cm車両甲板の天井を高くした。

イ 旧船では上下2箇所あった舷門口を中間に1箇所とし、舷門口を旧船での下段の位置より上げることで船内の階段数を少なくした。勾配はバリアフリー法に適合している。

ウ 急患搬送時ストレッチャー対応型エレベーターとし、舷門口の階は乗降スペースの確保が難しく乗降口を設置できなかったが、車両甲板で救急車からストレッチャーのままエレベーターに乗り、客室バリアフリー席へ移動できるようにした。

エ 旅客定員を400名から358名に減員し、ゆったりとした船内環境を確保した。

オ 法規上、非常時の脱出経路が必要であり、右舷、左舷の両方に客室から避難するための階段を設置することとなったため、階段幅が狭くなった。

(2) 主な意見に対する甑島商船の回答及び今後の対応

ア 船内階段の勾配が急で、幅が狭い。→**ドック期間中の改修を検討する。**

イ 足の不自由な方等は、車両甲板から乗船してエレベーターを使用できないか。
→**安全確保と停泊時間を考慮すると難しいが、できるかどうかを検討したい。**

ウ 舷門口が1箇所となり、満潮時にタラップが急になる。→船高が高くなり、舷門口を中2階1箇所としたことで、客室階への船内階段の段数は少なくなった。**タラップの改良等は今後検討したい。**

エ 検討事項の進捗を知らしめてほしい。→**改善案の進捗状況を周知する方法等を市と協議しながら示したい。**

II 経過報告（その他）



東郷平八郎記念式典
(6月1日)



里地区現地確認
(7月2日)



下甑島駐屯地視察
(7月30日)



久しぶりに東京に住む
孫と再会